

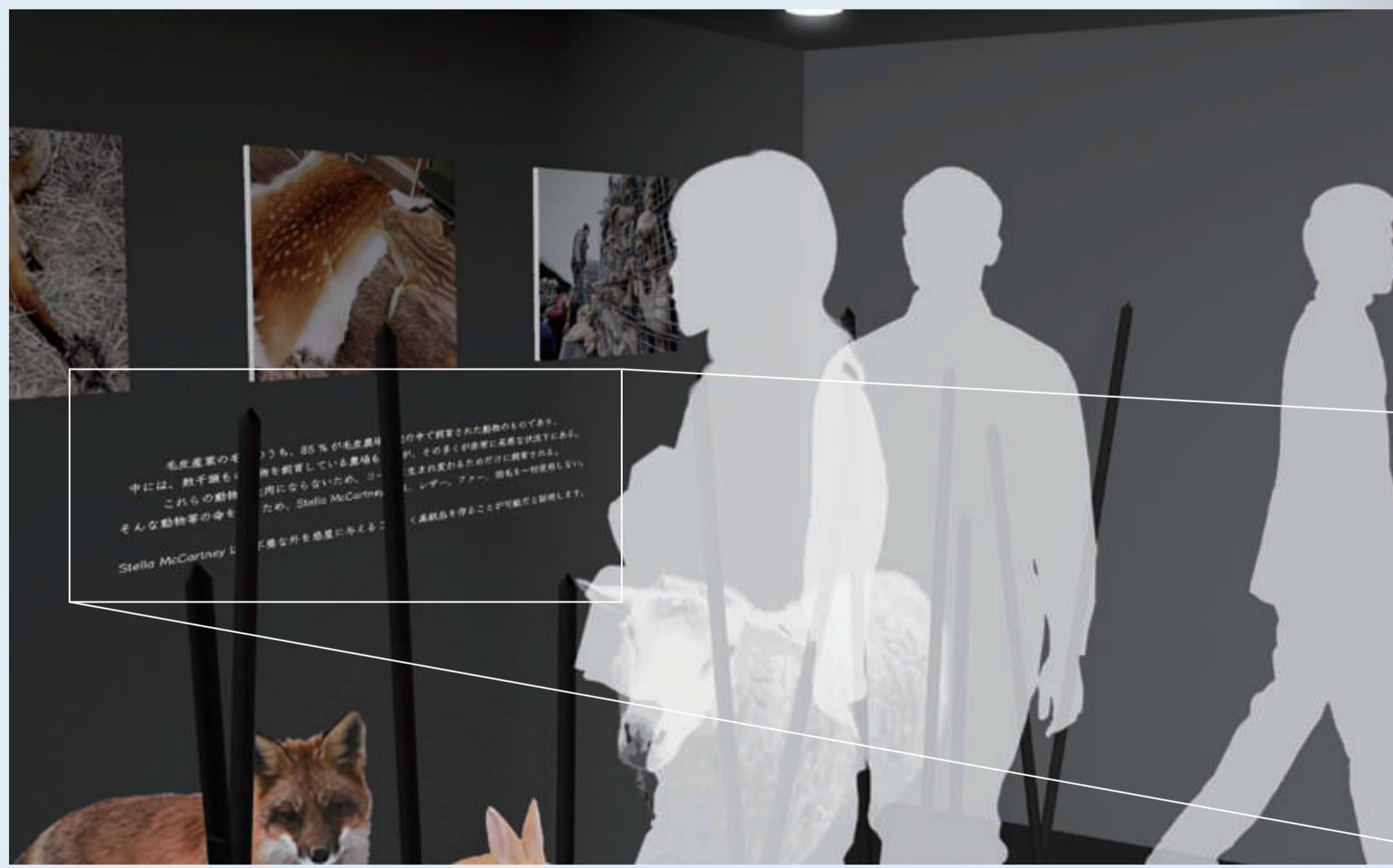


○檻スペース○

バイヤーはブース正面に向かって左側の檻を模した黒い空間から入る。入ってすぐのカウンターに置かれたオータムウィンターコレクションのカタログを取り、より狭く暗い奥へと進む。奥はパネルと剥製を、ランダムに配置した柵で区切り、向かいの壁には動物たちを捕まえるための道具や武器のレプリカを飾り、実験やファッションのために生かされている動物等の悲惨な現状を表現する。ここで、バイヤーは入ってきた空間が動物等を閉じ込めている檻だと気づく。



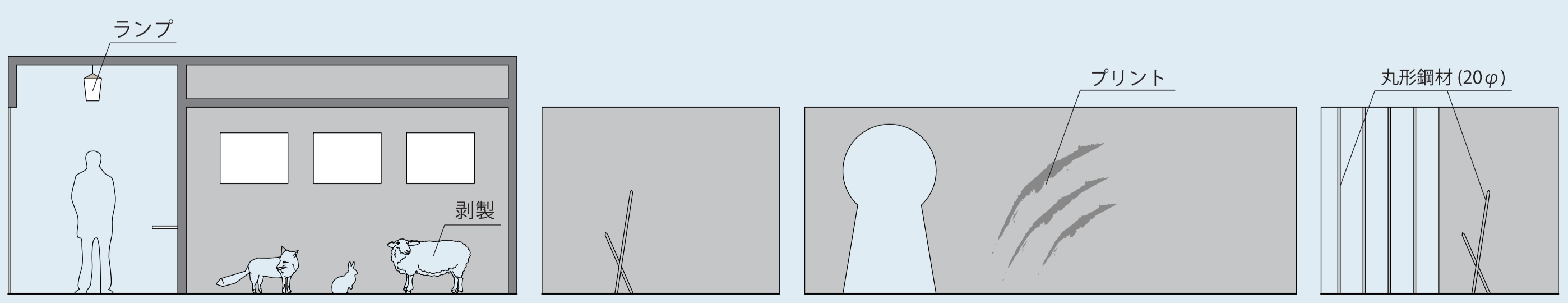
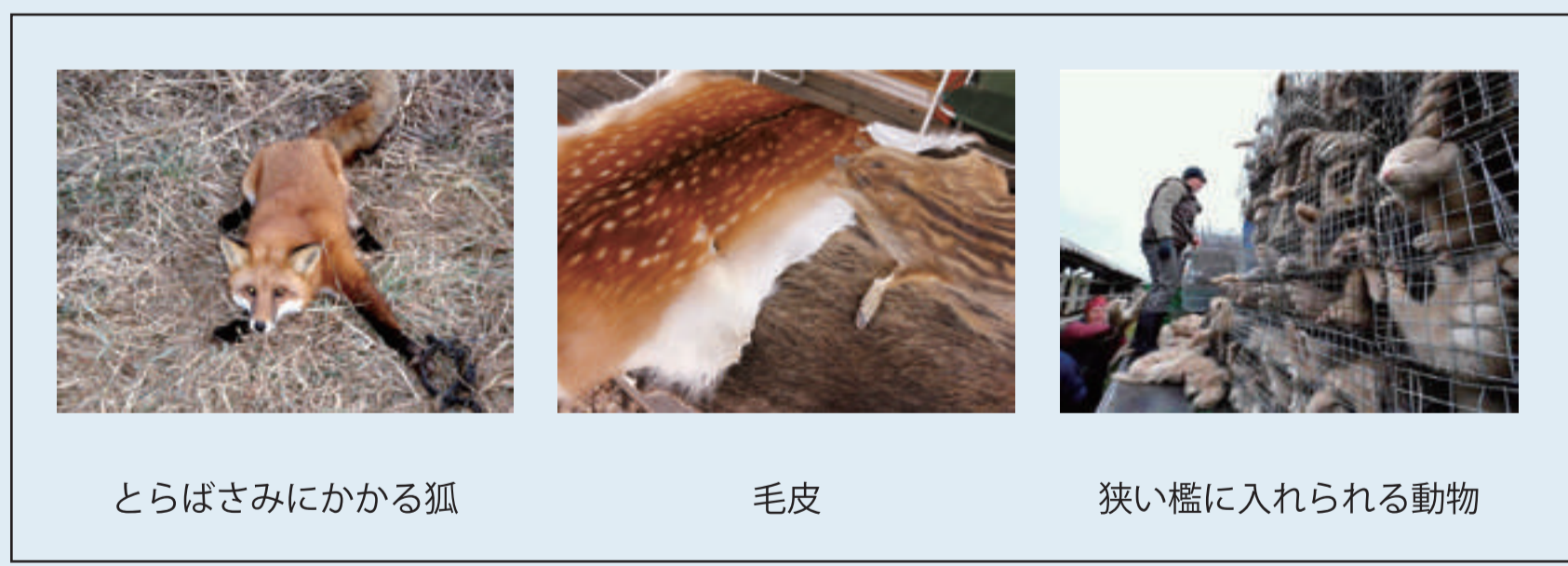
出口は鍵穴の形になっており、ステラマッカートニーの活動により動物等が檻から解放される明るい未来を表現する。



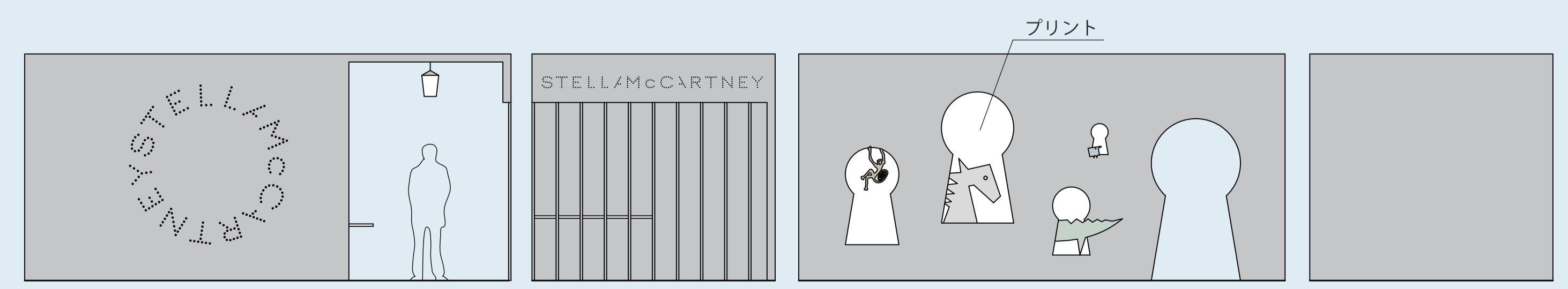
檻の壁に記載する内容

毛皮産業の毛皮のうち、85%が毛皮農場の檻の中で飼育された動物のものであり、中には、数千頭もの動物を飼育している農場もあるが、その多くが非常に劣悪な状況下にある。これらの動物は食肉にならないため、コートに生まれ変わるためだけに飼育される。そんな動物等の命を守るため、Stella McCartneyでは、レザー、ファー、羽毛を一切使用しない。Stella McCartneyは、不要な害を惑星に与えることなく高級品を作ることが可能だと証明します。

パネルに使用する画像



檻 展開図 S=1/50



檻 立面図 S=1/50

